

# グループホーム・越前(認知症対応型共同生活介護事業所)

## 1. 評価結果概要表

作成日 20 年 10 月 28 日

### 【評価実施概要】

事業所番号	1872000284
法人名	有限会社 グループホーム福井
事業所名	グループホーム・越前
所在地	福井県丹生郡越前町米ノ第56号17番地1 (電話) 0778-39-1702

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成20年9月12日	評価確定日	平成20年10月28日

【情報提供票より】 ( 20 年 8 月 30 日 事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8 人、非常勤 3 人、常勤換算 11 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 ( 円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,050 円	

### (4)利用者の概要 ( 8 月 30 日 現在)

利用者数	9 名	男性 5 名	女性 4 名
要介護1	2	要介護2	1
要介護3	3	要介護4	0
要介護5	2	要支援2	1
年齢	平均 83.4 歳	最低 64 歳	最高 97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	両林医院、丹南病院、岸デンタルクリニック
---------	----------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは日本海に面する漁業が盛んな地域にあり、国道から少し入った山のふもとに建っている。道路から玄関までは十数段の石段があり、入居者の出入りには注意を要するが、玄関先からの海岸の景色は心を和ませてくれる。建物は2階建てで民宿を改装した一般住宅である。共有空間は広くはないが、居間兼食堂の窓から山の草木が眺められ、心がゆったりとして自宅にいるような雰囲気を感じられる。</p> <p>ケアの面では家族から生活状況を聞いて、できることでできないことを把握し、さらに本人が何を希望しているか探りながら、本人のよりよい暮らしに向けて介護計画を作成している。特に余暇時間には入居者が自分の特技や好きなことをして過ごせる支援をしており、一人ひとりが活動や作業に集中することで表情が明るくなり、夜もぐっすり眠れるようになるなど入居者の楽しみや生活の張りにつながっている。2名の看護師を中心にできる限り住み慣れたホームで暮らせるよう、家族と相談し、希望があれば、協力医院と連携しながら、重度期から看取りのケアも行っている。</p> <p>地域との支えあいでは、漁業者から獲れたての魚や季節の野菜の差し入れがあり、鮮魚は入居者が率先して刺身にするなど食の楽しみにもなっている。また、管理者等が一人暮らしの高齢者宅を訪問し、様子をうかがうなど地域交流・地域貢献に努めている。災害訓練では、ホームの立地上のデメリットを踏まえ、地元的女性消防クラブの協力を得たり、今年からは地区の消防署と連携を図るなど災害時の入居者の安全確保に向けて取り組んでいる。</p>
---

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価時から、管理者と計画作成者が前任者の病氣・退職に伴って交代しているが、新任者は外部評価の意義を認識し、前回評価での改善課題の見直しについても積極的に取り組んでいることがヒアリングから確認できた。主な取り組みとしては、理念を見直ししたり、「ホーム便り」を発行したり、介護計画の見直しにあたっては担当者が常に入居者の状況に気を配りながら定期的に行うなどの改善がみられた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員がそれぞれ担当の分野の評価を行い、全員で回覧とミーティングを行って、自己評価の共有化と毎日のケアの反省とあり方を再認識している。管理者と計画担当者の指導のもと、必要な改善を行うなど自己評価の意義を理解し、サービスの質の向上につなげる努力をしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は、家族、自治会長、民生委員、町の職員等で構成され、2か月に1回開催されている。入居者の生活状況の報告や家族の希望や意見の把握、運営上の課題等を提起し、委員からは意見をもらっている。特に、前回の外部評価の改善課題を運営推進会議に諮っており、理念の見直しや災害対策について消防署の参加を要請するなど改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応として意見・苦情受付箱を設置しており、意見等があれば運営推進会議に諮っている。また、運営推進会議には、希望する家族は誰でも参加することができ、自由に意見を述べるができるように配慮している。不安への対応策としては、外部評価の指摘もあり、ホームの活動や運営状況を報告する手段として「グループホーム越前便り」を今年の2月から発行し、家族や関係者に届けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に参加し、町内の祭りや地区のふれあいサロンに入居者と共に参加している。散歩時には地域の人たちと挨拶を交わしたり、管理者等が通勤時に近所の人や一人暮らしの高齢者に声かけをして、安否確認をするなど交流を深めている。地域の漁業者からは新鮮な魚貝類や野菜の差し入れがあり、入居者の食の楽しみとなっている。防災訓練には、災害時の支援体制として地域の女性消防クラブの参加を得て、また、今年9月の訓練には消防署の参加も要請しており、入居者の安全対策における地域との関わりに向けて職員が意識的かつ積極的に働きかけている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営 1 理念の共有</b>			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価での指摘を踏まえ、これまでの理念を見直している。具体的には、「入居者と共に」「自然と共に」「地域と共に」を基本に入居者がその人らしく生涯、自然や地域の人と共に暮らすことを理念として玄関先や事務所に掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を新しくしたこともあり、管理者は信念を持って、この理念の考え方やケアの実践について職員に機会あるごとに指導している。職員も理念を理解して、ケアの場面で積極的に実践していきたいという姿勢が見られる。		
		<b>2 地域との支えあい</b>			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、町内の祭りや地区のふれあいサロンに入居者と共に参加している。散歩時には地域の人たちと挨拶を交わしたり、管理者等が通勤時に近所の人や一人暮らしの高齢者に声をかけて、安否確認をするなど交流を深めている。地域の漁業者からは新鮮な魚貝類や野菜の差し入れがあり、入居者の食の楽しみとなっている。		
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価は管理者が中心となって行っていたが、今年は全職員がそれぞれ担当の分野を評価し、全員で回覧とミーティングを行い自己評価を共有しながら管理者がまとめている。職員も自己評価の意義を認識している。		
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族、自治会長、民生委員、町の職員等で構成し、2か月に1回開催されている。入居者の生活状況の報告や家族の希望や意見を把握、運営上の課題等を提起し、委員からは意見をもらっている。特に、前回の外部評価の改善課題を運営推進会議に諮っており、理念の改正等についても提案し、意見を聞いている。		
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の高齢福祉課の職員が運営推進会議に参加しており、入居者の状況報告やホームの運営等について意見を聞いたりしている。町への要望も出すなど緊密な連携を図っている。		
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	今年の2月から毎月、ホーム便りを発行して入居者個々の生活便りと一緒に家族に届けている。ホーム便りでは毎月の行事風景を写真入りで載せたり、翌月の行事予定を知らせるほか、生活便りでは入居者個々の健康状態や生活状況等を知らせている。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、苦情、不安への対応として意見・苦情受付箱を設置しており、意見等があれば運営推進会議に諮っている。また、運営推進会議には、希望する家族は誰でも参加することができ、自由に意見を述べるように配慮している。		
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間で4人が病気等の理由で退職しているが、職員の異動について、家族には来所時や便りで知らせたり、公民館、役場、かかりつけ医等関係機関にも知らせている。また、職員は新任時には、入居者に対して馴染みの職員と2人体制でケアにあたるようにして、入居者の不安解消に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>5 人材の育成と支援</b>			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、職員を外部研修に参加させている。研修後は、他の職員に対して資料提供をするなどして全職員の資質向上に努めている。また、今年は特に理念の共有化に向けて管理者や計画作成担当者が職員の指導に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内外の他のグループホームへ実習訪問をして交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		
		<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、職員が訪問をして顔見知りになり、本人・家族と共にホームを見学してもらっている。また、1日体験入居をもらってから利用開始につなげており、入居者が徐々に馴染めるように配慮している。		
		<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	鮮魚の差し入れがあると魚のさばき方を教えてもらったり、短歌の批評をもらうなど入居者の得意なことを通して職員は教えられたり、食事の後片付けを手伝ってもらったりしており、その際には必ず入居者に感謝の言葉かけをしている。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> <b>1 一人ひとりの把握</b>			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おしゃべり等聞いていなかったり、返事がなかったりしたら話題を変えて、本人の興味を引き出すようにしている。また、作業やレクリエーション等は入居者の表情を見て判断し、無理強いしないように気を付けている。入居者のできることややりたいことを把握し、職員同士が相談しながら本人の希望に沿ったケアを心がけている。		
		<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族から生活状況を聞き、できることとできないこと、本人が何を希望しているかなどを把握しながら、本人がよりよく暮らすためのケアのあり方について職員の意見を聞いて作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者が月2回介護計画の評価をし、改善等の見直しをする場合は他の職員の意見も取り入れながら行っている。また、入居者の状態に変化があれば、その都度、担当者から意見を聞き、家族に状況を説明し、計画を見直している。		
		<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2名の看護師を中心に入居者の通院の付き添いや日常の看護を行ったり、終末期の看取りを行うなど職員の専門性を活かした柔軟な支援をしている。また、管理者等が地域の一人暮らし高齢者宅を訪問し、様子をうかがうなど事業所として取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの協力医の説明と共に家族にかかりつけ医の希望を聞いている。通院に看護職員が付き添ってかかりつけ医との連携を図り、家族の希望に沿うように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、家族の意向を聞き、主治医とも話し合っ、方針を決めている。また、今年からカンファレンスを行うなど全員で方針を共有しながら支援している。常駐の看護師がおり、希望があれば協力医との連携のもと、看取りの支援も行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーの保護に向けて、カンファレンス等で言葉づかいや接し方について話し合い、全職員が注意しながらケアに取り組んでいる。訪問調査時も職員の言葉づかいや接し方は適切であったが、トイレの入り口がビニールカーテンとなっているためプライバシーの保護という点では十分とは言えない。		入居者の共用トイレの入り口がビニールカーテンとなっているためプライバシーを守る上で一層の配慮が求められる。できれば、入居者のプライバシー保護および衛生面からも引き戸か鍵のかかるアコーディオンカーテンに取り替えることを期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に沿ったケアに取り組んでおり、外出がしたいという人には職員が付き添って出かけたりしている。訪問調査当日も昼食後にみんなでゲームを楽しむ人もいれば、自室で休みたいと言って2階へ行った人もみられた。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	鮮魚や旬の野菜の差し入れがあった時には、入居者が率先して料理するなど食の楽しみにつながっており、食後の後片付けも手伝ってもらっている。昼食時に職員は入居者の隣に座り、楽しく話しかけたり、食事の介助をしたりしているが、一緒に食事はとっていない。		食事に関する一連の作業に入居者が積極的に関わり、食の楽しみにつながっているため、今後はさらに、職員が入居者と一緒に関わり食事を味わうことで楽しみをより共感することも期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を基本としているが、希望があればいつでもシャワーや入浴ができるように柔軟な対応をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の楽しみや生きがいとなるように、趣味や特技を本人や家族から聞いて余暇に取り入れ、職員や他の入居者が教えてもらうようにしている。その結果、一人ひとりが活動や作業に集中することで表情が明るくなり、夜もぐっすり眠れるようになるなど入居者の楽しみや生活の張りにつながっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地区の行事や買い物等で外出しているが、散歩は、夏の暑さや冬の寒さの厳しい時期は避けており、春や秋の気候の良い季節に本人の希望に合わせて外出支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけておらず、天気の良い日は玄関のドアも開放している。また、玄関の出入りの際に鈴の音が鳴って職員に分かるようになっており、生活の中であまり違和感のないように工夫がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回評価での指摘を受けて、今年は9月の訓練に地元の消防署が参加することになっている。また、ホームのある場所が少し高台となっており、入居者は急な石段を下りての避難となるため、地元の女性消防クラブにも声をかけ、訓練に参加してもらうなど協力体制を強化している。		ホームの敷地内には他に避難場所や避難通路がないが、隣家との境の用水路を越えて避難することの可能性も考慮して、安全な移動方法の検討と近隣住民への協力要請を望みたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量に気を配り、栄養バランスも考慮している。水分は、午前と午後にお茶の時間を設けて、十分な量がとれるように支援している。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くはないが、窓から季節感を取り入れたり、開放感を出したりしている。玄関先に長椅子を置いて入居者の居場所にも工夫している。浴室は十分な広さがあり、浴槽もゆったりとして入浴を楽しめるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、一人ひとりの個性がよく出ている。好みでベッドの横に畳が敷いてあったり、使い慣れた物や好みの品が飾ってあるなど本人や家族と相談して居心地の良い居室づくりの工夫がなされている。		

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>理念に基づく運営</b> <b>1 理念の共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前からの指摘を受け理念を作り変え、新しい気持ちで理念を理解し、実践に向けている。		
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がケアの一部としていることを皆が自覚し共有できる様取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議、ホーム便り・個人便りにて理解してもらえる様取り組んでいる。		
	<b>2 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝・夕の挨拶や声掛け等をしている、又高齢者の一人暮らしの方には何かあったときには連絡する様伝えている。		
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議、米ノ地区のふれあいサロン、他施設の納涼祭等に参加している。		
6	事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	一人暮らしの高齢者宅を訪問し困っていること要望等を聞き排泄の後始末等をする、又声掛けをしている。		
7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をスタッフ全員に分け話し合いながら取り組み、カンファレンスを開き改善すべきことを見直している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて状況報告や意見を聞き、改善、要望等カンファレンスに活かしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢福祉課に相談、意見を聞く等取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修を受け成年後見制度を活用している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制、虐待防止について日ごろより指導、実践している、9 / 24 ~ より再度研修予定		
<b>4 理念を実践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に一つ一つ説明している、また理解して貰うために、家に持ち帰り再度見てもらうようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見等を入れるポストを設置、苦情、意見等があればカンファレンスにかけ改善する様にする。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	生活便り、個人用・越前便り・ホーム全体、を出している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見等を入れるポストを設置、苦情、意見等があればカンファレンスにかけ改善する様にする。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、ミーティングを開き、意見・苦情を聞き改善の方向に持っていく。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤3名・夜勤1名とするも、緊急時直ぐ駆けつけるスタッフを作っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットなので異動は無い。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年1名実践研修に出し、現在リーダ研修1名参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加し話し合いをして他施設へ訪問し実習をしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月の休日9～10日間昼食後は、時間を決めていないが休憩を少し取り入れるようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強会・他施設実習 処置等の講習会を行い向上するよう取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所にいたるまでに本人との話し合いを設け要望・不安な点・困っている点を聞きケアプランに取り入れている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所に至るまでに、家族との話し合いを儲け、要望・不安・困っている点を聞きケアプランに生かせるようにしている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け申し込みは記入していただくが、急ぎの場合は他施設の紹介、連絡を取るようになっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフとの信頼関係を築き、スタッフと一緒に他の利用者の中に入って行けるよう支援している。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	役割が持てる利用者に持続性を持ってもらう、又「ありがとう」の感謝の声掛けをしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会、月1回の生活便り、ホーム便りにて報告し、要望が無いかがっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族の関係を十分把握し面会時に時間を作ったり、行事があると写真を撮り、生活状況などを見てもらっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家で使用していた物を持ってきてもらったり、家族の写真を部屋に飾ってある。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居間でレクリエーションを行ったり、勉強会を行なう際利用者同士が助け合ったり面倒を見たりしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家の近くまで行く際に立ち寄りしたり、現在の状況を報告している、又入院時にも定期的に面会に行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できること出来ないことを把握し、スタッフで相談し本人の希望を取り入れるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より聞き取りをし、ケアプランに生かしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録・申し送り・カンファレンスにて現状を把握し情報の把握に努めている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成時には家族からの生活状況を、伺う中で出来ていたこと、出来ないことを把握し、また本人がなにを希望されているかを探りながら作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間の中であっても、状態の変化があれば見直し、家族にも状況説明をし、介護計画を作成する様にしている。また担当者よりの聞き取りなどもしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を実践しながら毎日の生活記録に、変化等の記録を残している。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的にはホーム内での生活が主流となっているが、他事業所からの行事参加などの招待を受け参加している。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	音楽ボランティア、個人によるボランティア訪問があり、防災訓練についても話し合いなどし、ホーム内にて年1回実施、消防との訓練は9月に実施予定。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日常的にはホームでの生活が主であり他のサービスの利用は無い、入居者担当のケアマネが来訪し、状態・状況の把握をしている、気づきがあればアドバイスもある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	支援センターとの情報交換しながら、指導または意見を聞くこともある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に、ホームの協力医院があることを伝え了解を得ている、また個別に、持病等で主治医の診察が必要な場合は家族の希望に添えるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医への通院などしている、病状に応じ何時でも対応してもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護師等に、身体状況のわからない時は指導を受けたりしている、指導して貰う中で、健康管理ができるようになる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との連絡を取り合い病状の把握に取り組んでいる。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族の意向を聞き、主治医との話し合いを行い方針を決め、カンファレンスまた、白板に重要連絡として記入し方針を共有している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>できること出来ないことを家族に伝え主治医より指示を受け、穏やかに過ごせる様支援に取り組んでいる。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の納得、了解を得よう十分話をするように努めている。サマリーや日常生活で本人が困らない様、出来ていること、出来ていないことを伝えている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>カンファレンス等で話し合いを行い言葉使い、接し方を同一化するよう取り組んでいる。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>コミュニケーションが取れる人、取れない人、それぞれに合わせて接することにより、思いが理解できる様取り組んでいる。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝食の時間、自室で休む時間、買い物等希望に添って支援している。</p>		
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容・美容は外出せず、月に1回程度スタッフがいき、毎日の更衣は季節に合わせて利用者が選んだり、介助したりしている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>旬の野菜、魚の頂き物があつたときは料理をする、魚の準備、料理、片付けも利用者にしてもらっている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒は祝い事の際に楽しみ、おやつ、飲み物等は利用者の希望を取り入れている。</p>		

項目番号	項目		印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄介助を要する利用者は各々スタッフが介助することによりパターンを理解し気持ちよく過ごせる様支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴で、入浴の嫌いな利用者でもタイミングを見ながら行なう様支援している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間、食後の休憩は一人ひとり自由に行なわれるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	後片付け、テーブル拭き、新聞切り等の役割、レクリエーションでの外出、リハビリ勉強会等で行なっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時買い物に外出したり、スタッフが買って来たりするが金額を決めて、お小遣い帳に記入している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	米ノ地区の行事、買い物等季節に合わせて行なっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	祭り事、花見等に皆で外出できる様取り組んでいる。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば対応している、又コミュニケーションが取れない方には状況報告している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会等は自由にできるようになっている、面会持には、面会簿に記入してもらっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束は実施していない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない工夫をしている、夜間は戸締りの為鍵をかけている。		玄関にのれんをかけ、鈴が鳴るようにし、無断外出の予防にしている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時間を決め見回りをしている為所在や様子を把握できている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に応じて物品を置いているが、利用者には、使用法や危険性を説明している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急マニュアルを作成し、事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成し事故防止に取り組んでいる。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行い、地域の方にも協力を要請している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	できる限りのことは事業所でおこない、リスクは家族には背負わせないようにしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝にバイタルチェックを行い、体調の悪い利用者には、随時バイタルチェックを行なっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のサマリー理解に勤めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に配慮し、繊維の多いものを取り入れ、乳製品なども取り入れている。それでも排便がみられない時は医師の指示のもと下剤を服用することもある。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後にうがいの声掛け、介助の必要な人は夕食後に、特に念入りに歯磨きを行ない、できる人には声掛けを行なっている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養はバランスよく考え、水分も時間を決め午前午後補給を行なっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いの実行、食前の手指の消毒を実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場、台所、調理器具、冷蔵庫など、時々消毒をしている、おかずの作りだめはしない、一食分ずつ作るようにしている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	階段が急なため手すりが取り付けられている為、外出時、また来訪者の方のも安心がもてるようになっている。玄関の横に花壇、野菜も少し作ってある。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けがしてあり、ホームでの行事の写真等も掲示してある。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には全員座れる場所があり、食事やレクリエーションなど行なえる、又居室は一人一人のプライベートが守れる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望にて、配置の工夫もしている、また歩行障害にならないよう移動しやすい工夫もしている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には空気清浄機を設置し、日中は窓を開け換気も行なっている。寒暖の時にはこまめに温度調整を行なっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、身体状態に即した配置をして、ホーム全体では移動しやすい工夫を、安全に生活を送れるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自力で出切ことはしている、少々の助言で自ら行動される事に見守り介助、中には途中で失敗することもあるが出来るだけ自立して暮らせるよう助言しています。		利用者が昔の歌や遊び等を取り入れたゲーム等をしたいと思う。
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の空間にはプランターを置いて利用者の希望するピーマン、ねぎを植えています。		裏山の少しの空き地に大根をの種を蒔き、利用者と一緒に収穫したいと思う。
項目番号	項目	<b>取り組みの成果</b> (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家庭的であり、男性5名と他の施設から見ても多いが、ホーム内の男性はとても穏やかで、女性に対しても優しくいたわりがあります。
- ・何時も入居者同士、又スタッフとのふれあいがある。